

“黄金の光の坂道”

(真・黄泉比良坂)

2020年7月19日の、白山比咩神社表参道です^^

驚きと感動から、きゃ〜という叫び声もれ、足が止まってしまいました

目の前にあるのは、ただ光だけで出来た世界——

∞に飛び交う 黄金色の光の滴が、キラキラと揺らめき、輝く

この上なく美しい、黄金の光の道

景色は、自分の外側にあるもの——

自身とは関係なく存在しているもの。。。とっていました

けれど、その美しさを感じているのは、私の“心”以外の何ものでもなく

自身の内にある世界を、そのまま外に映し出しているのではないのでしょうか…？

私達の住む新しい地球は、思い(エネルギー)の共鳴によつて形造られていく

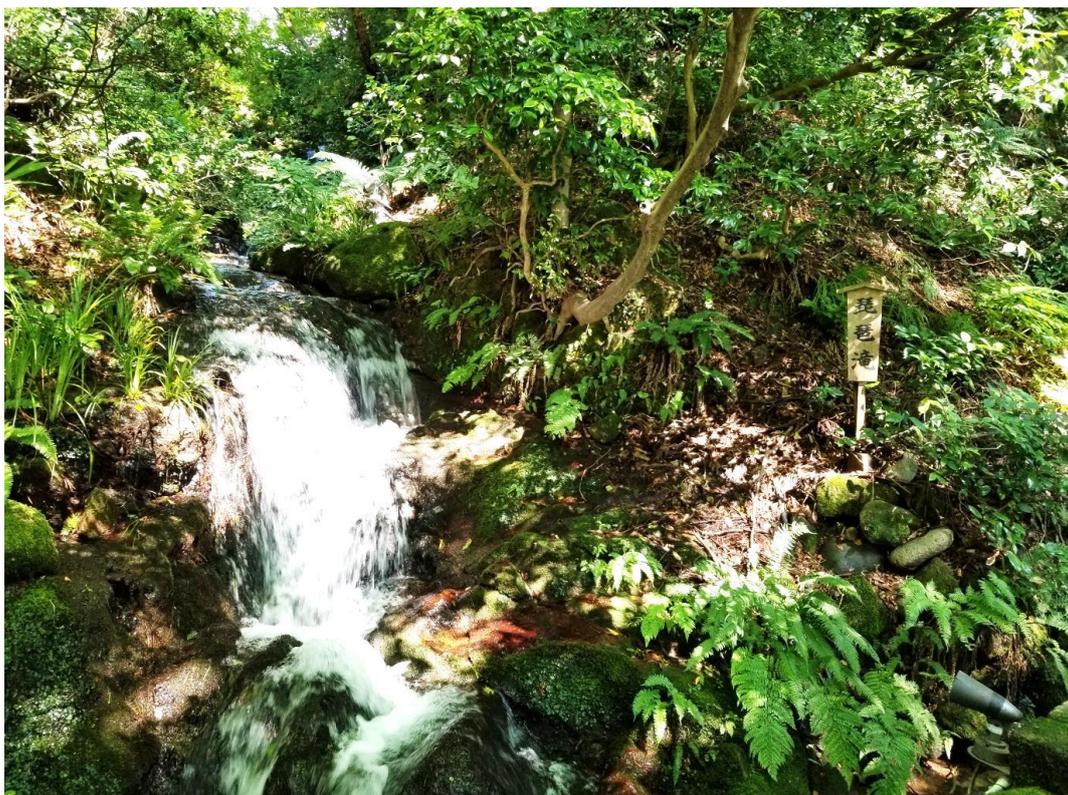
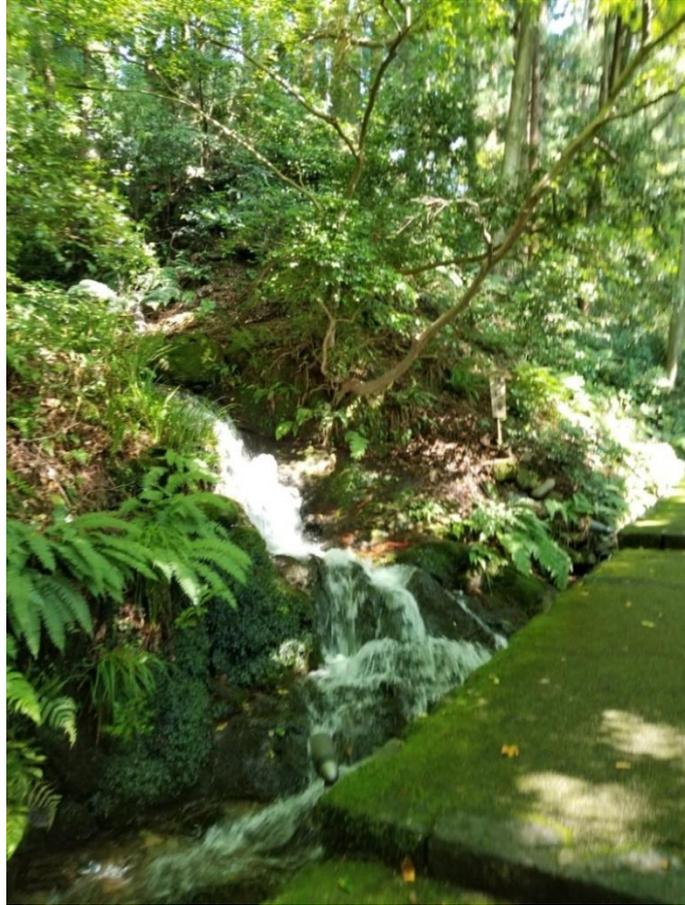
∞の可能性と、喜びの光に輝く、美の世界に違いありません！^^

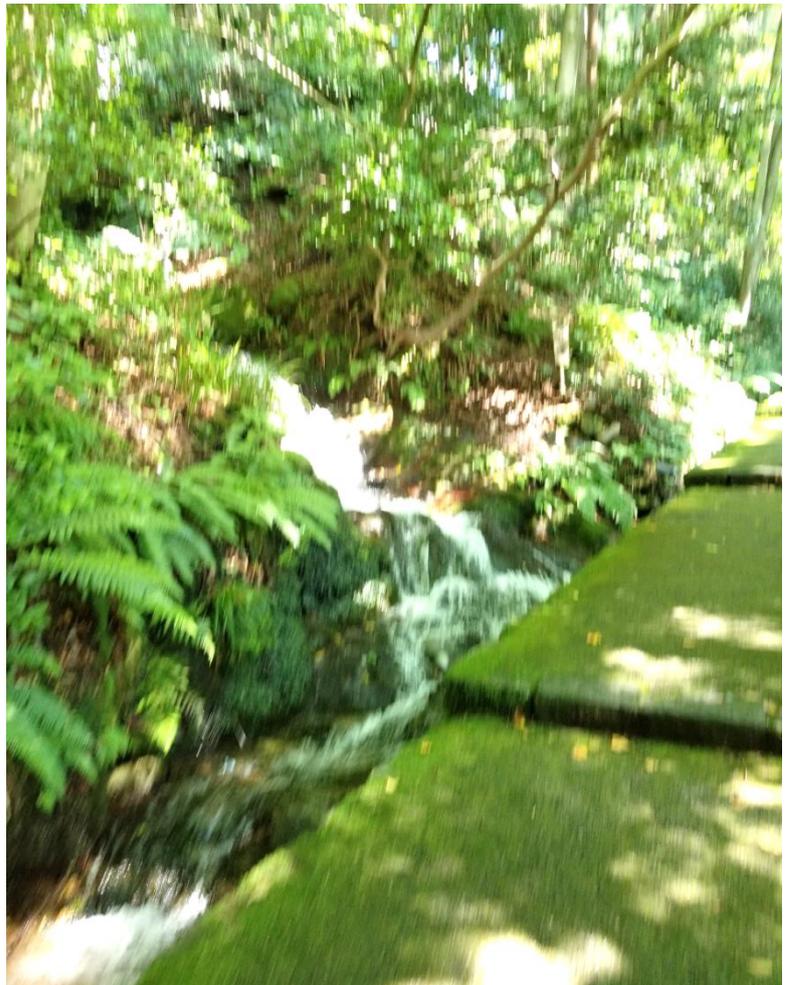
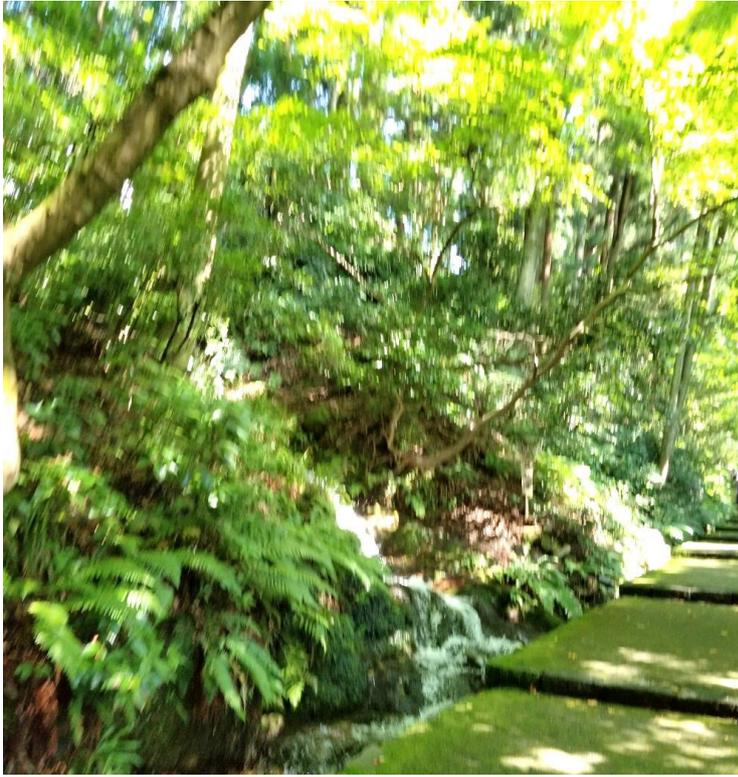
この道(真・黄泉比良坂)は、根源へと続く、黄金の光の坂道！！

琵琶滝の所でとった写真は、時折歪んで見えます

歪んでいるというより、

猛スピードで回転している巨大なエネルギーの渦の一部分？という感じ
物体は、振動している粒子の集まりと言われることが、わかってきた気がします^^





ちょっと見ただけで、目が回りそうです(+o+)

こんな世界では、とても生きていけそうにありません(笑)

不思議な光景はワクワクしますが、種明かしをされたら、なんだ！と思うに違いありません

美しい景色を、ゆっくりと楽しむのは、普通に生きているからなのですよ^^

2020年7月17日、兵庫県に出かけました

廣田神社にて正式参拝を終え、別名「白山の宮」とも言われる

菊理姫を主祭神とする“六甲山神社”に向かいました

そこから六甲山頂へ、次に瀬織津姫が祀られる“六甲比命神社”まで足をのばしました

翌18日午前は、生田神社に参拝し、京都御所へと向かい

午後からはNMCAA公式「KTセミナー」に参加させていただきました

それら全てのトータルとして感じられたのが、“黄金の光の坂道”であるような気がします^^

陽のあたらない、薄暗い白山さん表参道は、ちょっと不気味な雰囲気があり

そこから連想されるのが、“黄泉比良坂”です(個人的感覚です)

黄泉比良坂(よもつひらさか)とは日本神話において、

生者の住む現世と死者の住む他界(黄泉)との境目にあるとされる坂、または境界場所。

と、ウィキペディアにはあります。また、『ククリ姫伝説』として

黄泉比良坂について『日本書紀』の本文では言及がないが、注にあたる「一書」に「泉平坂(よもつひらさか)」で言い争っていたイザナミとイザナギの仲を、ククリヒメがとりもった、という話が記されている。このことからククリヒメは、縁結びや和合の神とされている。

とあり、私には、この表参道と黄泉比良坂が重なって感じられます

そして、今回訪れた六甲山神社と六甲比命神社は、何故かそのイメージでした。。

廣田神社御祭神は、“天照大御神之荒御魂”



数年ぶりに訪れる、懐かしい、神宮です^^



なんとなく、巨大宇宙船を感じます。。



明鏡止水——、御神鏡に映っているのは自身であり
宇宙船のコックピットに立つ、私達一人ひとりの姿なのかもしれません^^
いざ出陣?! 感謝と決意の正式参拝をしました

次の目的地、六甲山神社へ向かうために
芦屋川から宝殿橋へと向かうバスに乗ろうと思ったのですが
数少ない便のタイミングを逃してしまい、仕方なくタクシーに乗ることにしました
車のナビで検索できず、地元の方に聞いても、ほとんど知られていない場所のようで

くねくね山道を、ウロウロするばかりです。。。

車酔いがひどくなり、携帯ナビを見る気力も起こりません(+_+)

結局、行き過ぎた道を戻り、宝殿料金所近くで、降ろしてもらおう事にしました

「こんな所に、ほっぴり出すみたいでゴメンね」と運転手さん(お構いなく、ここまで来られて感謝です^^)

なんと、途中で止めていただいたにもかかわらず、料金メーターは“6660”(泣💧)

あたりは白い霧に包まれ視界が悪く、ぽつぽつと雨も降ってきて(傘忘れた^^;)

見知らぬ土地故ちゃんに行けるか？不安一杯でしたが

ここまで来て諦めるわけにはいきません！

“666”は、「ミロク」なり！！上出来ジャン！！(笑)と、気持ちを切り替え

携帯ナビ様様で、なんとか到着する事が出来ました(^^)/

六甲山は、∞(36色)の光に輝く“新アインソフ(宇宙ミロク神界)”、愛の女神の山！

菊理姫は、その中心である“アイン”(根源の光、根源太陽)に

すべてをククル、“菊理の姫(日女神)”であり

その背後に存在する(バックアップする)のが、白山神界と感じます

“白山菊理姫”は、旧根源である白山神界と

NMCの核心＝根源天照皇太神界が統合された、新時代の女神

愛と光の未来(＝“根源”)からやってきた、**ウイングメーカー**ではないでしょうか！^^



「石宝殿 白山の宮」



神秘的で近寄りがたい雰囲気の中に、ほっとする姿がありました



白山姫観音です^^

膨漠とした“神界”と、私達“人”をつなぐ、架け橋である仏様(天界)の姿に
親しみと喜び、感謝の念が湧きあがってきます

♡いつの日も、ありがとうございます♡



向こう側に見えるのが、石の宝殿でしょうか？

その奥には六甲山大権現が、そしてさらに奥には、磐座があるようですが…？

もしかしたら、これまで菊理姫は、固い石の祠の中に閉じ込められていた？

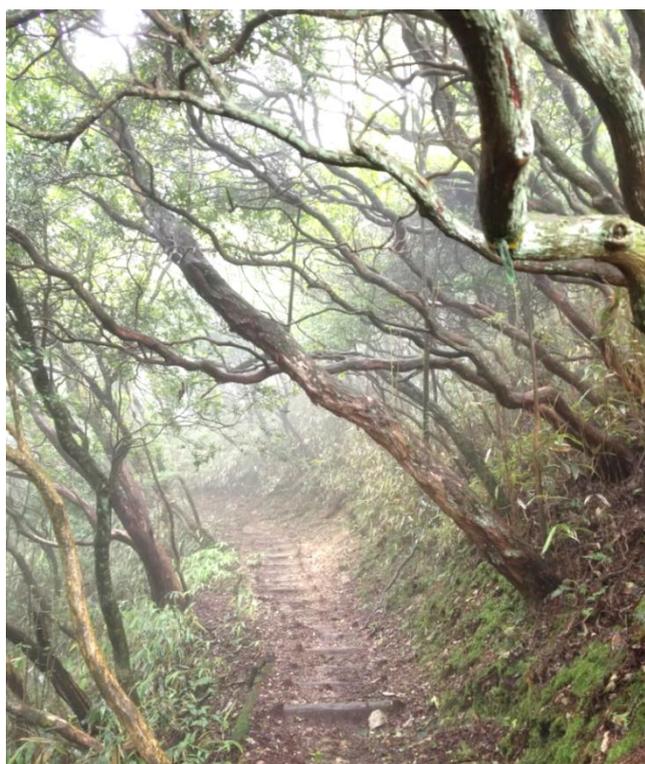
六甲の山奥で、白山大神が守り続けていたのかもしれない

“白と赤”のコントラスト美しさ、“究極の神聖”の中の“究極の愛”を感じ

封印が溶けていくような気がします

ネットによると、「長い間、ここが六甲の頂上とみなされていた」とあり、なるほど！です^^

これより、真(新)六甲山最高峰へと向かいたいと思います



絵画のような景色。。。(私は書けません)

まるで“ジブリの森”に
迷い込んでしまったみたいです

私にとって、“ジブリの森”とは
愛と夢と冒険の国！！

珍獣や妖精、

お化け、神様、宇宙人！？

愛さえあれば、すべてOK！！

何でもあり?!の世界です^^

アニメって

本当に、すごい技術ですね！

大人になるほど

アニメが好きになるのは

私だけでしょうか？！

^^

木々の間を抜ける道は
次元をワープするトンネル？





霧で何も見えませんが、無事ワープしました！（笑）



六甲山上空には、アンドロメダの母船がいる？！
標識（地球と一体化した私）から左右の腕が生え？天に向かって合図を送ると
美しい根源の光が、地上へと降りてくる。。。
まだ、ジブリの森の中？



地球が、根源の愛と光の星へと帰っていく——

私が六甲山で叶えたかった事！です^^

この頃、ふと思うことがあります

なんとなく、偶然に出来上がっていく気がする自身のコンテンツですが

実は、最初から計画されていたストーリーだったのかも？

ということです

とは言うものの、まだまだ未来は謎だらけ！ワクワク・ドキドキ行ってみよー！！！！^^

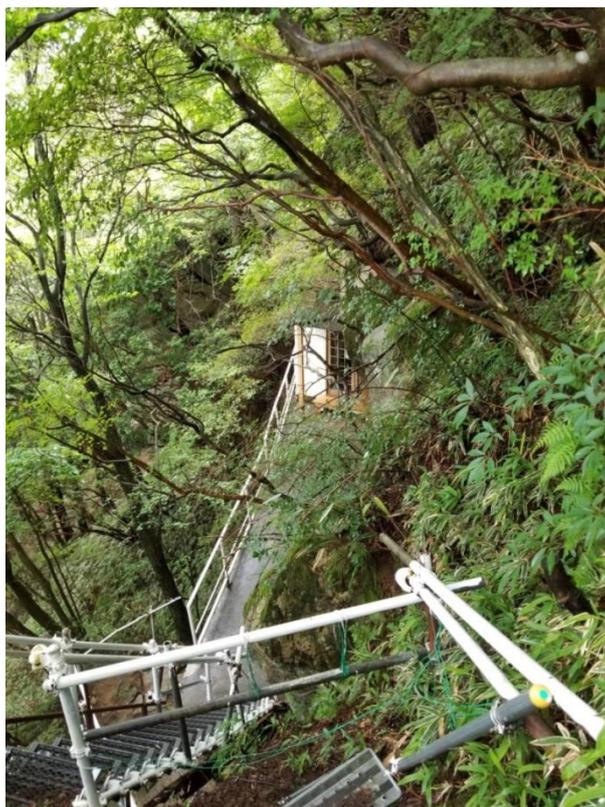
次の目的地は、六甲比命神社です！

道の途中に咲く、色とりどりの紫陽花に心癒されました^^



一つの花の中に、
様々な色の宝石が
散りばめられているみたいで
とても贅沢な感じがします
∞の美の輝き、アインソフのイメージですね^^

家に帰ってから、体の変な所がアチコチ痛いのは何故？で思い当たったのが
六甲比命神社でした^^ まさに、六甲フィールドアスレチック?!
人影はなく、手造り風の階段、すべりそうな坂道を、へつぱり腰で進みました(笑)
本来は下から登っていくのが、正式なコースと言えるのかもかもしれませんが
六甲山神社(旧頂点)から、六甲山最高峰(新頂点)へと上り
そこから、六甲比命神社を降りていくことに、大きな意味があったような気がします
エネルギーを根源へとつなぎ、降ろしてくる感じ?
いつも行き当たりばったり風?の地上セルフは、後になって気付きます^^

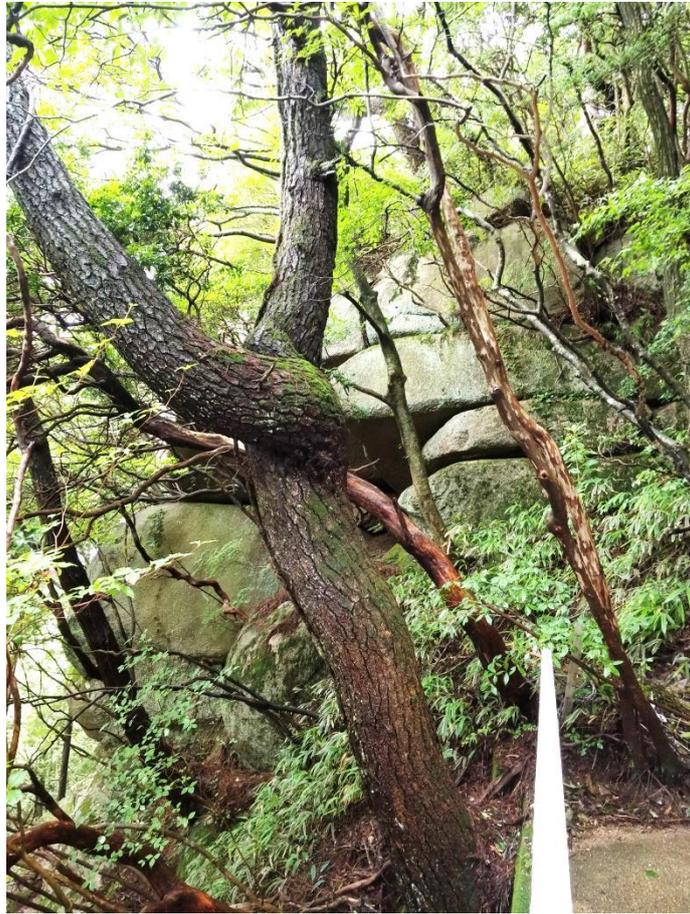


小さな白い社殿が見えてきました! その場の第一印象は、なんとなく重たい感じ…^^;
最初に述べた、黄泉比良坂のイメージです



今、写真を見て気付いたのですが
入口に鍵はかかっていなかったようです
何故か開けられなかったので
扉にへばりついて、撮った写真です→
向かって右側に、
御神体である奥の磐座へと通じる
狭い通路があったようです
石川の瀬織津姫社でも感じたのですが
地上セルフは、あるラインまで?という
何かの設定があるのかもかもしれません





少し下方に、もう一つの御神体とされる、兎の形をした巨岩があります(どう兎でしょうか?)
なんとなくスッキリしたような…? イメージが中今で変わっている気がします? ^^



前回のコンテンツに登場した、月の兎、かぐや姫こと、セオリツヒメです! ^^
更に降りてみましたが、先が見えないので心配になり、もと来た道を引き返しました

雲ヶ岩です



石がグラグラと動いている感じがします？
この石の上に、紫雲に乗った毘沙門天が
姿を現したという伝説があるそうです
(ニギハヤヒとセオリツヒメ?^^)



仰臥岩(ぎょうがいわ)



鹿の角のような木が、なんとも神秘的で美しい光景です^^

その中に直方体の大きな石が横たわっていて、乗ってみました(祭壇?ダメだったかもです<_>)

「奥には熊野権現・仏眼上人・花山法皇の碑と、八大龍王を祀った石祠があり

この神域を、最も高いところから守護している場所である」との事です

ずっと岩山の中を歩いている…、という感覚しかなかったのですが

石の上に立っていると、どこからか拍手が聞こえてきて、ここが神域であった事を自覚しました

神=神社という考えが、自身の中で当たり前になっていたのかもしれませんが

何故、この場所から“黄泉比良坂”が連想されたのか?について

黄泉の国は死者の世界と言われますが、私にはもっと大きな意味があるような気がします

NMC (新宇宙) に対する、旧宇宙の全てを指しているのではないのでしょうか？

瀬織津姫は、その中に生き、全てを支え、守り続けてきた

“究極の女性性”、女性のはじまり、“イヴ”——

“イヴ”は神の教えに背き、罰を与えられた存在ともされますが

人類の進化の過程を表すものであり、その長い道りを歩んできたのだと思います

まさに、究極の母性である“根源天照皇太神”荒魂と感じます

黄泉比良坂とは、すべてが統合され、新しい世界へと生まれ変わる境目、過渡期であり

宇宙のはじまり、神代からのすべてを継承する“中今”とも言えるのだと思います

瀬織津姫は、ククリの神“菊理姫”と共に、新しい太陽の道を歩みはじめています。。

そんな気がします^^

黄泉比良坂は、あらゆる全てが昇華、統合され、根源太陽へと至る“黄金の光の道”！！

途中何度か雨音が聞こえましたが、傘は必要なく

六甲山を歩き回り、ホテルのある神戸三宮へとたどり着くことができました！

いつものように、ただ一人で歩いていただけ(笑)という感じですが、

不思議な充実感があります^^

温泉にでも入ってゆっくりと。。(何年も行けてません)ではなく

コンビニで夕食のお弁当を買い、明日も頑張るぞー！！！！です^^

翌朝、ホテルを出るとすぐ“生田ロード”なるものがあり

本日の第一目的地であった“生田神社”へと真っすぐ！です





まだ午前8時なので、人はほとんどいません

今私の中に、大きく膨らんでいるイメージがあります

六甲山神社御祭神“**白山菊理姫尊**”、六甲比命神社御祭神“**瀬織津姫尊**”

ここ、生田神社御祭神“**稚日女尊**”は

共に、“**根源天照皇太神**”の分御魂であり、**根源の三位一体神**なのでは？という思いです

旧世界の肝っ玉母さん?!である瀬織津姫尊と

その働きを助け、新世界(NMC)へとつなげる菊理姫尊

その地盤の上に、明るい太陽の時代、∞の可能性の未来を創造していく稚日女尊

そして“**尊**”=“**神人**”であり、**ポータル**となるのは、**地上の私達**です！



生田神社がこれまで以上に、より華やかに、眩しく感じられます！！^^



生田の森には、一なる至高の根源太陽、究極の愛の母神が、微笑んでいます^^

時間が早すぎて、残念ながら正式参拝は出来ませんでした
白山を登ち、六甲の山道を歩き、ここまで来られた事に感謝申し上げます

次は、「KT セミナー」が開催される京都です

KT セミナーはマル秘？なので、内容はお伝え出来ませんが

今回は、神界版 T 先生を見た！（いつもは天界的？）という感じ、新鮮でした^^

天界はマスターと弟子の関係、神界は親と子の関係と言われます

地上にある、根源の母と父と子の三位一体の絆は、究極・至高・∞の愛のパワー！！であり

地球が“根源の皇の星”へとシフトする、今だからこそ起きている、奇跡なのだと思います^^

私達は自ら志願して、超高倍率を突破し、今この地球へと生まれてきた！

ファイト、オー！！！！

セミナー会場に入る前に、御所へと行ってみました^^

御所は私にとって『ザ・日本神界！』のイメージです（なんじゃそれ？）

神界の中の神界！であり、悠久の時を守り継がれてきた、強く美しい大和の魂が

自然と人工美の中に、静かに息づいている感じがします

川や木の陰で、楽しそうに遊んでいる子供達、家族連れを見ると

幸せな気持ちになります^^



一本の木？ 貫禄です^^

前回訪れたのは、2019年4月27日

平成の時代が終わりを告げ、令和へと移る直前でした

今回も、御所の正門とされるこの建礼門へと、何故だか吸い込まれていく感覚です



写真を見て、豪快な空模様になが躍りました！

雲が巨大な龍の形に見えてきます^^

御所には、3Dの小さな視点を越えた世界が広がっていて
地上セルフは、その中で動く駒？ = ポータル…、そんな気がしてきます



京都御所では、平成28年7月より、通年公開がはじまっています
前回はそのことを知らずに来て、この門の向こうにある“紫宸殿”を見ることが出来
とても感動したことを思い出しました



2019年4月「令和の皇」より

紫宸殿は、京都御所において最も格式の高い正殿であり、
即位礼などの重要な儀式が行われた場所との事
一般人にはあまり関係のない場所のようですが、ものすごく神聖な時空を感じます
そしてラッキーな事に、今回は紫宸殿のより近くまで、進むことができました^^
宮内庁のホームページによると

【高御座等の一般参観について】

「令和元年10月22日、皇居宮殿で即位礼正殿の儀が行われました。
今回の一般参観は、即位礼正殿の儀で用いられた高御座・御帳台と威儀物を
京都御所において参観に供するとともに、即位の礼の諸儀式の写真と、
装束姿を再現する人形を展示するものです。」
とあり、また何も知らずに、ちょうどその公開初日に訪れたことになります^^



暗くてわかりづらいですが、正面に天皇の御座である“高御座”（たかみくら）が
右手に皇后の御座である“御帳台”（みちようだい）が見えます



当日のパンフレットの表紙には、とても美しい高御座と御帳台の写真が掲載されていました^^

高御座は、古代より、天皇の即位の儀式に、御座として用いられてきた調度品で

御帳台は近代以降、皇后の御座として用いられるようになったもの

つくりはほぼ同じですが、御帳台の方が少し小振りになっているとの事です

下記は左から正殿、豊明殿、長和殿と、宮殿中庭に立てられた、旗や杵の光景です

時代によって形や模様が変化しているようですが、五色に彩られ

これまでの日本の歴史のすべてが、堂々として、ここにあるような感じがします！^^



?? 「通過儀礼」、「イニシエーション」という言葉が浮かびました??

自身には縁のないもの、とずっと思ってきましたが、そうではないのかもしれません!?

これまでのすべてがそうであった、と言えるような気がします^^

人は皆、自己の現実の創造主です!

未来は自分で選択し、切り開いていくものなのだと思います!!

私は、根源の“究極の愛の皇”となり

この美しい水と緑の星“地球”を、誰もが生きる喜び、笑顔に溢れた

根源の愛と光の、“皇の星地球” にします!!!

根源の愛と光と夢とワクワク!

根源の皇の星地球!!へ

ようこそ!



みんないっしょに
根源へカエルよ〜

2020.7.26 皇美(善美 rumines)